

## 論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3084 号	氏 名	井上 拓保
論文審査担当者	主査 教授 下 司 映 一 副査 教授 伊 藤 純 治 副査 教授 加賀谷 善 教		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>学位申請論文について、上記の主査 1 名、副査 2 名が審査を行った。</p> <p>本論文の要旨</p> <p>「本研究は抜管後誤嚥性肺炎 (PAP ; Post-extubation Aspiration Pneumonia) 発症予測因子の検証を目的した。48 時間以上経口挿管下人工呼吸管理された患者を診療録から後方視的に 36 例抽出し、抜管後 PAP 発症群 11 例と PAP 非発症群 25 例の 2 群に分類し統計学的に解析した。PAP 発症率は 30.6%、予測因子は改訂水飲み試験 (偏回帰係数-3.588, <math>p&lt;0.05</math>, オッズ比 1.028, 95%信頼区間 1.001-1.049) でカットオフ値は 2 点であった (感度 64%, 特異度 88%)。経口摂取開始基準とするには改訂水飲み試験だけではなく、包括的な嚥下スクリーニング検査が必要である。」</p> <p>本論文について幾つかの質問があった。(最終試験結果報告書に記載)</p> <p>これらの質問に対して、井上氏は多くの文献を引用しながら適切に回答した。以上の質疑について、主査および両副査により回答の妥当性を確認し、さらに本論文の、抜管後誤嚥性肺炎予防予測因子としての改訂水飲み試験の有用性とその新規性を確認した。</p> <p>以上の審査結果を踏まえ、本論文を博士 (保健医療学) の学位授与に値するものと判断した。</p> <p>論文題名 : 48 時間以上経口挿管下人工呼吸管理患者における抜管後誤嚥性肺炎発症の予測因子の検証</p> <p>掲載雑誌名 : 昭和学士会雑誌 第 79 巻 2019 年 掲載証明有。</p>			

(主査が記載、500 字以内)